

News Letter

Vol. 04

2021年10月 発行

島根大学

島根県立大学

松江工業高等専門学校

米子工業高等専門学校

「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型)」 中間報告シンポジウム

ダイバーシティ研究環境実現のために

—SAN'INダイバーシティ推進ネットワークの軌跡と未来—

令和3年9月16日(木)、これまでの事業内容を振り返り、今後の取組をより良いものにするを目的に中間報告シンポジウムを開催しました。

はじめに、大分大学から松浦恵子副学長(ダイバーシティ担当)を講師としてお招きし、「地域での産学連携型ダイバーシティ～サファイア人材育成プロジェクトの推進～」というタイトルでお話いただきました。大分大学が代表として立ち上げた「おおいた連携ダイバーシティ推進会議」での取組について、女性がリーダーとなる共同研究や論文投稿支援等のスキルアップ、セミナー等での意識改革、異業種交流会による産学連携型のダイバーシティ推進など、産学が同じ方向を向き、地域が一体となり、女性・男性それぞれの意識の変化や人材育成に取り組んでこられた経験を紹介いただきました。次に共同実施機関4校がダイバーシティの取組状況について報告を行いました。

後半は、基調講演をいただいた松浦先生と共同実施機関に所属する現場教員をパネラーとし、パネルディスカッションを実施しました。これからのSAN'INダイバーシティ推進ネットワークの取組について、各教員から見解を述べていただき、またフロアの参加者であった次世代たたら協創センターの教員からは、互いの実施事業におけるダイバーシティの取組についてのご紹介をいただきました。

今回も学内者向けには対面、学外者向けにはオンラインでの開催となりましたが、共同実施機関の教職員、SAN'INダイバーシティ推進ネットワーク協力機関の企業・団体、その他大学の職員等合計93名の方に参加していただき、今後の取組の発展の土台となる有意義なシンポジウムとなりました。



第3回研究マッチングイベント

令和3年7月16日(金)、第3回研究マッチングイベントをオンラインで開催し、連携4機関と地元企業の方など29名の参加がありました。

今回は、室田佳恵子教授(生物資源科学部)に「食品成分の生体利用性研究を通じた機能性食品開発への貢献」というテーマで、産学連携に関する特別講演をしていただきました。

その後、研究マッチングを求める5名の島根大学、松江高専の研究者の方からのショートプレゼンテーションを行いました。発表者の方々は1人5分の持ち時間で自分の研究紹介、研究上ご自身ができること、そして求めるコラボレーションの形につ

いて発表しました。最後に希望者の方とショートプレゼンテーション発表者との個別ディスカッションを実施しました。

今回の研究マッチングイベントでは共同研究のマッチングが1件成立し、7月に公募した女性リーダー育成支援事業(共同研究型)に申請・採択されました。

また、共同研究の実施を目指して継続的に議論検討していく約束をした研究者と企業の方とのマッチングもあり、小規模での開催ながらも大きな成果を得ることができました。



小野義正先生による令和3年度研究者のための 英語スキルアップオンラインセミナー 英語論文の書き方(実践編)

昨年度に引き続き数々の大学で講義実績のある人気講師の小野義正先生(理化学研究所 創発物性科学研究センター)をお招きし、研究者のための英語スキルアップオンラインセミナーを開催しました。今年は6月に「英語論文の書き方(実践編)」と、10月に「国際会議での英語プレゼンテーション」として各3回の講義を実施することになりました。

前半の「英語論文の書き方(実践編)」では、6月14日、16日、18日の3日間、1時間半の講義を3回にわたりお願いしました。昨年度の(基礎編)(応用編)に続く内容で、日本語を英訳するのではなく、英語的発想で英語論文を書くためのポイン



島根大学 (2021.6.14, 6.16, 6.18)

英語論文の書き方(実践編)

島根大学

2021年6月14日(月)
2021年6月16日(水)
2021年6月18日(金)

理研 創発物性科学研究センター
小野 義正
yoshimasa.a.ono@riken.jp

トを丁寧に解説していただきました。
3日間の延べ参加人数は371名に上りました。事後アンケートでは、約96パーセントの方に、講演内容について「ほぼ満足」あるいは「満足」とお答えいただき、大変充実した内容のセミナーでした。また、このセミナーについて当日参加できなかった各連携機関の方や復習をされたい方には、動画での配信も行っています。

なお、「国際会議での英語プレゼンテーション(10月26日、28日、29日)」の講義は、現在参加者を募集していますので、右記URLからお申込みください。



刊行物紹介

※刊行物について、入手をご希望の方はダイバーシティ推進室までお問い合わせください。

SAN'INダイバーシティ推進ネットワーク年次報告書

令和元年9月から令和3年3月に行った、SAN'INダイバーシティ推進ネットワークの活動をまとめた年次報告書を作成しました。

SAN'INご縁ネットミーティング

分野を超えた研究ネットワーク、研究アイデアのひらめきのきっかけ、新たな共同研究などを生み出す「場」作りを目的として月に1回程度開催しています。ご縁ネットミーティングでは、「メンバーが自身の研究を中心に話題提供し、参加者でディスカッションする」学びながら交流を深める企画を実施しています。

数の世界の愉しみ方 ~「整数論」と「和数」~

【日時】 6月24日(木) 12:05~13:00
【講師】 青木美穂(島根大学 総合理工学部 教授)
【参加人数】 12名

日本独自の数学である和算の発達や、日本の文化である算額(和算の問題や解き方を記して神社仏閣に奉納した額や絵馬)に書かれている和算の問題と、現代の数学との関連について歴史を交えて紹介がありました。

そして後半、青木先生の専門の整数論で扱う素数についての話、また、コンピューターが素因数分解を苦手としていることを利用したRSA暗号のしくみを「秘密の鍵」といった言葉で説明していただき、参加者からは「数学は学生時代から苦手でしたが、数学の歴史を面白く聞くことができました」「素数と暗号のお話をとても興味深く聞きました」などの声が寄せられました。



米子のまちとアートの試み

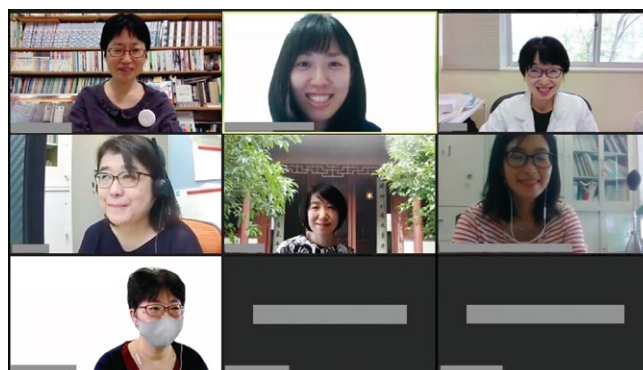
【日時】 8月26日(木) 12:05~13:00
【講師】 高増佳子(米子工業高等専門学校 総合工学科 建築デザイン部門 教授)
【参加人数】 13名

鳥取県米子市で、アーティストと協同して作品作りを行いながら、地域の発展を目指している「AIR475(エアヨナゴ)」の活動についてご紹介いただきました。

商店街にある空き店舗を利用して、県外や海外から招いたアーティストや地域住民らと共にアート作品を制作する取り組みを続けてこられ、地域の活性化に貢献されてきました。

また、戦前に中海の萱島に存在した料亭「たつみ」の逸話ルーツを集めて再現する作品制作のための活動や、耕作放棄地について考えるシンポジウムと合わせて郊外の農地に広がるセイタカアワダチソウを刈り取ることで、文字をつくるランドアートのワークショップ活動などに学生と一緒に参加することで、学びの場にもなっているとのことでした。

参加者からは、「同じ専門分野なので大変刺激になった」「自分も松江で活動してみたいのでアドバイスをお願いしたい」などの声が寄せられました。



2021年度女性研究リーダー育成支援事業 (共同研究型)

連携機関間の共同研究を促進し、女性研究者の研究力の向上を支援するため、連携機関に所属する女性研究者が研究リーダーとなる連携機関間の共同研究に対し、研究費を助成しています。今年度採択されたのは下記研究課題です。

○：研究代表者

島根大学

- 生体電気インピーダンス分析機器を用いた肥満の病態解析と効果的な指導導入について**
○杉原 志伸〔保健管理センター(准教授)〕、武田 美輪子〔島根大学地域包括ケア教育研究センター(特別研究員)〕、南 雅樹〔米子工業高等専門学校教養教育科(教授)〕
- 学校健診における成長曲線異常判定のプログラム開発—小・中学生の健康管理の改善を目指して**
○鞆嶋 有紀〔医学部(准教授)〕、外谷 昭洋〔松江工業高等専門学校電子制御工学科(准教授)〕、〔鬼形 和道〔医学部(教授)〕、小林 弘典〔医学部(講師)〕、和田 啓介〔医学部(助教)〕〕
- 機能的システムとしての地域伝承検討：市民の地域愛着および子どもの社会的発達に及ぼす影響から**
○佐藤 結美〔人間科学部(講師)〕、菊野 雄一郎〔島根県立大学短期大学部(准教授)〕、高見 友理〔人間科学部(准教授)〕、岩瀬 峰代〔大学教育センター(准教授)〕、佐藤 桃子〔人間科学部(講師)〕
- 吸入薬剤輸送効率向上に向けた口腔咽頭内への粒子沈着現象の解明**
○濱口 愛〔医学部(助教)〕、佐々木 翔平〔松江工業高等専門学校機械工学科(助教)〕

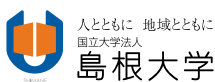
- 環境負荷の低い重合方法によるビスクリマリン骨格をもつ新規ポリマーの開発**
○王 傲寒〔総合理工学部(助教)〕、山口 勲〔総合理工学部(教授)〕、櫻間 由幸〔米子工業高等専門学校物質工学科(准教授)〕
- 若手教師の視点と知見を最大化する組織の意思決定プロセスの構築と教員研修改革**
○香川 奈緒美〔教育学部(准教授)〕、深見 俊崇〔教育学部(教授)〕、高橋 泰道〔島根県立大学人間文化学部(教授)〕
- 近赤外分光法を用いたペプチド合成反応モニタリング手法の開発**
○石垣 美歌〔戦略的研究推進センター(助教)〕、山本 達之〔生物資源科学部(教授)〕、青木 薫〔米子工業高等専門学校物質工学科(教授)〕
- 遺伝性神経変性症の病態解明に向けた、CCP1蛋白質とミトコンドリアの動態解析**
○荒木 亜寿香〔医学部(准教授)〕、山本 達之〔生物資源科学部(教授)〕、青木 薫〔米子工業高等専門学校物質工学科(教授)〕

松江工業高等専門学校

- 多読指導へのアダプティブラーニング活用と Autonomy**
○服部 真弓〔人文科学科(教授)〕、篠村 恭子〔島根大学教育学部(講師)〕、廣瀬 誠〔情報工学科(准教授)〕、ハーヴェイ 佳奈〔人文科学科(助教)〕

米子工業高等専門学校

- わが国戦時の米子市における建物強制疎開と戦後の市街地形成の展開に関する研究**
○荒木 菜見子〔総合工学科(助教)〕、細田 智久〔島根大学総合理工学部(教授)〕



人とともに 地域とともに
国立大学法人
島根大学

NEXTAツアー開催

6月28日(月)、7月27日(火)に「次世代たたら協創センター(NEXTA)ツアー」を開催しました。両日で中高生、高専生、企業の研究員の方に加え、イベントサポーターのSUN'IN Girlsの学生を合わせた16名の参加がありました。

始めに、次世代たたら協創センタープロジェクト推進室三浦室長の案内のもと、NEXTA棟の研究室や実験室を見学しました。後半は、同センター平山准教授から、「物理学」について分かりやすく説明いただいた後、NEXTAにおける研究内容について教えていただきました。

その後、進路選択に関する座談会を行いました。参加者からは「将来、NEXTAで勉強したいと強く思いました」「普段見ることができないNEXTAを見学でき、とても貴重な経験になりました」「島根県が誇る日本古来のたたら製鉄の技術がNEXTAの研究によって世界へ広がって行ってほしい」などの感想をいただきました。



てごほ〜む×SUN'IN Girls理系クイズ企画

島根大学医学部学生無料塾サークル「てごほ〜む」の定例勉強会の休憩時間を利用し、SUN'IN Girlsによる理系クイズ企画を小中高生向けに実施しています。SUN'IN Girlsの学生達による、自身の専門の理系分野の知識を生かしたクイズで、参加する中高生だけでなく、ボランティア学生も一緒になって楽しみながら学んでいます。

若手女性研究者を対象とした 科学研究費補助金 獲得支援事業

令和4年度科学研究費補助金基盤研究(C)の獲得を目指す研究プロジェクト11件、若手研究の獲得を目指す研究プロジェクト4件を採択しました。昨年度同支援事業により支援した8割の研究課題が本年度科学研究費補助金に採択されましたことから、今年度も研究課題ごとに助言者をおきました。

各機関の取組

さぼっとカフェ開催

8月5日(木)に、「ダイバーシティって何だろう」というテーマでさぼっとカフェを開催しました。今回は、松江・出雲キャンパスの教職員と学生が9名参加し、「ダイバーシティ」に対する正直な思いや考えをぶつけ合いました。ダイバーシティの推進がなかなか進まない理由として、ほぼ単一民族国家である日本人の気質や、お金と手間がかかることが大きいという意見が出ました。また、ダイバーシティを推進するということは、ダイバーシティの推進をすべきでないという意見も尊重するべきという、逆説的だが確かにそうだと参加者が唸るような発言もあり、1時間半という長い時間ではありましたが、とても充実した時間を過ごすことができました。

国際学術雑誌投稿支援事業

今年度は前期に1件採択し、論文投稿料、英文校閲料等の関係経費を支援しました。

島根大学女性教員メンタープログラム

本年度から開始した、一定の職務経験を持つ教員との交流を通じて、新任(着任後5年未満)の女性教員が大学教員として成長していくことを支援する、島根大学女性教員メンタープログラムにより、現在3名の新任女性教員がプログラムを活用しています。



子育て学生ランチ会

毎週水曜日、子育て学生オンラインランチ会を実施しています。これは、子育てしながら学ぶ学生同士の交流の促進と情報交換を目的としたものです。参加希望等のお問い合わせはダイバーシティ推進室までお寄せください。

研究サポーター制度

育児や介護等によって研究時間の確保が困難な研究者に対して、大学が配置した研究サポーターが研究の補助業務を行う研究サポーター制度を実施しています。今年度は12名の教員が利用しています。



「看護管理コンソーシアムしまね」の設立

看護管理者に求められるマネジメント力育成に向けた主体的な取り組みを支援することを目的に、島根県内の医療機関、島根県看護協会、島根県立大学からなる統合的なプラットフォーム「看護管理コンソーシアムしまね」を2021年7月9日に設立総会を開催しました。看護管理コンソーシアムしまねの事務局を島根県立大学出雲キャンパスにおき、石橋運営委員長より目的達成に向けて実施していく5つの事業について説明があり、意見交換を行いました。事業は①看護管理者版eポートフォリオ「ENISHI」の開発・運用、②「実践知」の創出・共有する場の運用、③研修会などリソースの情報提供、④看護の代表者間の交流・情報共有のネットワークづくり（「カタリバ」の開催）、⑤看護管理に関する講演会の企画・実施です。

第3回カタリバの開催

第3回カタリバを2021年7月21日にオンラインで開催し、約40名の参加がありました。看護管理コンソーシアムしまねの立ち上げを受けて、日本看護協会理事の吉川久美子氏の講演と意見交換を実施しました。コンソーシアムを活用し看護管理者のマネジメント能力の育成を図れるとよい、施設を越えた取り組みで、情報提供・共有し合える体制を活用したい等の意見がありました。日頃、語れる場が少ない看護管理者にとって、組織を超えてつながるしくみや場ができたと言え、看護管理者のネットワークを促進していきながら、各事業を進めていく予定です。



松江高専教員の一週間公開

高専教員の職務に対する理解促進のため、教員公募のHP上に「松江高専教員の一週間」を公開しました。

メンター制度

新規採用される女性教員等が職場に適応し、教育研究及び生活が円滑に行われることを目的とし、一定の職務経験を有する教員が仕事や生活上の悩み等に関して助言を行うメンター制度実施要項を制定しました。

ハラスメント防止研修

7月1日(木)から8月31日(火)の間に、動画視聴によるハラスメント防止研修会を開催しました。

この研修会は、ハラスメントの防止対策をさらに促進することを目的として、本校教員を対象に行われたもので、105名の参加がありました。

研修動画は、国立高等専門学校機構が作成した株式会社フォーブレーションによる「ハラスメント防止研修」で、最近のハラスメント問題の特徴、ハラスメントの実態、ハラスメントの防止等について具体的な事例を基に解説いただきました。

松江高専女性研究者・技術者講演会

8月6日(金)・7日(土)の両日、研究者や技術者の仕事内容、働き方及びキャリア形成などに関する理解促進を目的として、松江高専女性研究者・技術者講演会を開催しました。(参加者188名)

講演会では、本校卒業生2名を講師に招き、楽天グループ株式会社オートエコシステム開発課 吉岡杏奈氏から「私のキャリア選択-後悔しない選択のために-」、株式会社島根富士通 生産技術統括部 生産技術部 設備開発担当 高橋のどか氏から「島根富士通での仕事について」と題した、ビデオ上映による講演をいただきました。

校長と女性教職員の懇談会

8月11日(水)、校長と女性教職員の懇談会を開催しました。

今年度は6名の女性教職員の参加があり、女性教職員から学校における男女共同参画推進に関する提案が、校長からはこれから女性管理職を目指す人へのアドバイスが行われるなど、和やかな雰囲気の中意見交換が行われました。

松江高専男女共同参画研修会 (管理的立場にある教職員対象)

9月14日(火)、本校の管理的立場にある教職員を対象に、オンラインによる男女共同参画研修会を開催しました。

研修会では、株式会社リカレントより河邊英里子氏を講師に招き、女性活躍推進研修と題した講義が行われました。参加者は、女性が組織の中で能力を発揮し活躍するために、組織として管理職はどうあるべきか理解を深めました。



外部資金(科学研究費)獲得に関する研修会

9月8日(水)、teamsによるオンライン形式にて、女性教員の積極採用と上位職登用にに向けた本校の取り組みの一環として、女性教員を含む本校教員を対象とした科学研究費申請書作成に関する研修会を開催しました。

当日は、審査・採択経験者である阿南工業高等専門学校副校長・教務主事 坪井泰士教授の講演のほか、本校の科学研究費採択者5名(うち2名女性教員)による自身の採択事例や作成上の留意点の紹介を行いました。

